

平成26年度「みらい」北極航海の概要

1. 航海名

北極低気圧予測実験

2. 観測航海の目的

大気-海洋間の熱・物質輸送に大きな影響力のある北極低気圧について、その予測可能性や大気海洋相互作用に着目した観測航海を実施する。主たる目的は以下の通り。

I. 国際連携による高層気象データの取得と予測可能性研究への応用

II. 海氷消失域での大気海洋結合系の季節進行の把握

III. 大気変動が及ぼす海洋構造と物質循環への影響の理解

3. 観測概要

高緯度定点（北緯77度、西経168度付近に20日程度）を柱とした観測を実施する。

I. 大気鉛直構造を把握するため、3時間に1度ラジオゾンデ観測を行う。また、降水システムと風の3次元構造を把握するため、ドップラーレーダー観測を実施する。航海中は総合海上気象観測も実施する。

II. 海洋中の水温・塩分・化学成分の鉛直構造を把握するため、6時間に1度CTD/採水観測を行う。その他、乱流観測や漂流ブイ観測も実施する。

4. 調査海域・航海日程

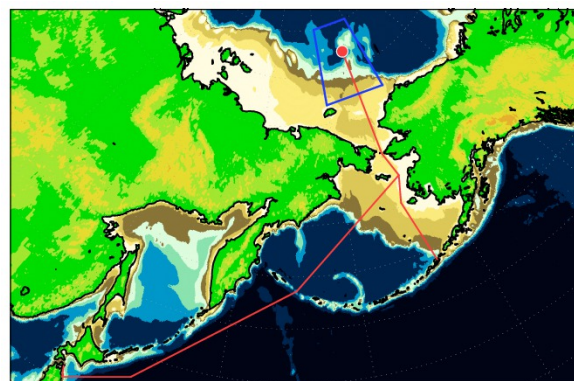
北極海、チャクチ海

平成26年8月31日

ダッチハーバー出港

平成26年10月10日

青森県むつ市関根浜帰港



5. 首席研究者

猪上 淳

(国立極地研究所/海洋研究開発機構)

予定航路（赤線）と定点ポイント（赤丸）

6. 備考

定点は海氷が存在しない海域に設定するため、海氷状況によっては場所を変更する可能性がある。2013年北極航海の定点観測の速報はブルーアス2014の要旨集を参照のこと (<http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/blueearth/2014/program.html>)。「みらい」による北極低気圧の観測については過去のプレスリリースを参照のこと (http://www.jamstec.go.jp/j/about/press_release/20110628/)。